



## 特集

# 被災地復興支援ボランティア

近年、全国各地でさまざまな災害が起り、メディアで報道されています。それをみて、被災地のために何かしたいと思っただけではありませんか？

今回は、東日本大震災の被災地である宮城県の七ヶ浜町の人たちのために、自分たちが出来ることを考え、安城市の野菜を被災地に届ける形で自分たちの想いを実現させた天野循夫さんと間瀬トシ子さんにお話を伺いました。

お二人は「七ヶ浜に野菜を送るプロジェクトチーム」の一員として、市や社協の補助金等を活用しながら、現在も活動を続けています。

### きっかけはおばあちゃんの一言

―活動を始めたきっかけは？

#### 【間瀬】

私の家の近所に住んでいるおばあ



ホコ天き一ぼ一市で被災地の特産品を販売する天野さん

あちゃんに「私が作った春大根をあちらの人に食べさせてあげて」と言われたのが野菜を送るきっかけなの。

#### 【天野】

買えば100円くらいかもしれないけれど、こちらから送る野菜には思いが詰まっているからね。被災地の田んぼや畑はいまだに塩が残っていて、作物が育たないことが多いんだよ。

### 「待ってたのよ」

―活動をしていて良かったことは？

#### 【間瀬】

野菜を持って現地に行くと、みなさん本当に喜んでくださる。「久しぶり！」と涙ながらに抱きしめ合う場面もあるんですよ。それを見ると、頻繁に行き来していても、心は通じ合っているってよくわかるんです。「待ってたのよ！」って迎えてくれると、涙が出てきますね。

#### 【天野】

時間が経っても、心のつながりを忘れてはいけないよね。被災地に行くたびに逆に励まされて、元気をもらってるよ。それがボランティアを続ける一番の原動力だね。

#### 【間瀬】

ほかにも実体験から、備えや避難訓練の大切さを教えてもらえたことが良かった。「絶対に夜は来るから、

懐中電灯は必須だ」とかね。それから助けられ上手になること。結局それが他人の命も自分の命も救うことになるのね。現地に行くと、本当に必要なことが見えてくるのよ。

### 好評♡安城市の野菜

―安城市の野菜を食べた七ヶ浜のみなさまの反応は？

#### 【間瀬】

東北は漬物の食文化だけれど、震災直後は野菜もなくて、試しに安城から持って行ったチンゲンサイを漬けてみたらとても好評だったんです。避難所で「食べたい（どうぞ召し上げ）」って出したら、みんな喜んでくれたの。「安城七ヶ浜食べたいん漬け」って名付けたのよ。

#### 【天野】

被災地の人が安城市に来た時、畑を見学して「この中から送ってくれたんだね」と言われ、「おいしい！」ときゅうりを生で食べてもらえたときは、嬉しかったね。

## それぞれが出来る支援を

—市民のみならずまじいひいり

### 【天野】

野菜を送る活動の他に、毎月第4土曜日にJR安城駅前で開催されているホコ天きーぼー市で、被災地の野菜や特産品を販売します。物をやり取りする資金の確保が大変だけど、なんとか活動を続けています。

「東北を応援しているよ」とこの活動を通じて市民に発信して、もっと多くの人たちに応援してもらいたいね。

### 【間瀬】

そう、決して人間が現地に行くことだけが復興支援ではないわね。いろんな理由で行きたくても行けない人もたくさんいるしね。

行けない人にも出来る支援はたくさんあるし、行ける人は、新しくできた「被災地ボランティア活動支援事業」を活用してどんどん現地に足を運んでほしいと思います。



被災地を訪れた時の一枚  
(中央が間瀬さん)

### 「インタビューを終えて」

今回は、東日本大震災の被災地支援をしているお二人からお話を伺い、熱い想いが伝わってきました。

その想いを形にするために、①被災地の人たちが望んでいることを知る②それぞれが出来ることをすること③制度をうまく活用することが分かりました。また、それが活動を継続させる秘訣なのだと感じました。

今後いつどこで災害が起こるか分かりません。安城市社協はそのときのあなたの「何かしたい」を応援します。ぜひご相談ください。

## 被災地ボランティア

### 活動支援事業のご紹介

安城市社協では、市から委託を受け、平成27年度から「被災地ボランティア活動支援事業」として被災地でのボランティア活動における交通費と宿泊費の一部助成を開始しました。

#### 【助成額（上限）】

宿泊費は3,000円/泊、一回3泊分まで。

交通費は15,000円まで。

#### 【対象】 全てに該当することが条件

- ・市内在住者
- ・安城市社協でボランティア登録をしている人
- ・被災地の社協又は災害ボランティアセンターの要請を受け、又は受け入れを承認されたボランティア活動
- ・災害救助法の適用地域でのボランティア活動

#### 【申請方法】

ボランティア活動後、30日以内に

①②③の書類をご提出ください

①申請書兼請求書

②活動先の社協又はボランティアセンターが発行したボランティア活動証明書

③宿泊した場合は、宿泊先の領収書

※詳しくはお問い合わせください。

碧海5市社協協働企画「公開講演会」『防災のまちづくりと日頃の地域のつながりについて』

豪雪と台風による被災経験のある滋賀県高島市と、防災のまちづくりを先進的に行っている半田市岩滑区から講師を招き講演会を開催します。

日時▼7月5日(日)

午前10時～正午

場所▼へきなん福祉センター

あいくる まちかどホール

ル(碧南市山神町8丁目

35番地)

講師▼後藤 章次氏

(半田市岩滑区 前区長)

井岡 仁志氏

(高島市社協 事務局長)

定員▼80名

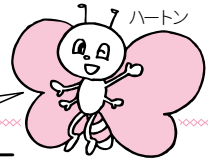
参加費▼無料

申込み期限▼6月26日(金)

2・3ページに関する申込み・問い合わせ▼

ボランティアセンター

☎(77)2941



ハートンからの  
おしらせだよ！

## 夏のボランティア 体験プログラム

市内の福祉施設のご協力により、ボランティアを始めたいみなさまの第一歩を応援する企画です。

「定年退職後にボランティアがしたいけど、きっかけがない。」「夏休みを充実するために、ボランティアにチャレンジしたい。」などとお考えの人はこの機会にボランティア活動を体験してみませんか？



**期間**▼7月18日(土)から

8月31日(月)までの施設の受け入れ可能日

**場所**▼市内の福祉施設

**対象**▼市内在住又は在学の中高校生、市内在住又は在勤の16歳以上の  
人

**参加費**▼300円(ボランティア  
活動保険料として)

**受付**▼6月16日(火)から受付

### 申込み手順

市内の中学校・高校、安城市社協ウエブサイト又はボランティアセンター窓口にて「申込みの手引き」と「申込書」がありますのでご利用ください。

#### ①活動場所を選ぶ

「申込みの手引き」から体験施設と日時を選びます。

#### ②予約する

活動を希望する施設・日時をボランティアセンターに電話で予約してください。

#### ③申込書を提出する

予約の取れた施設・日時を「申込書」に記入し、ボランティアセンターに提出してください。

#### ④事前説明会に出席する

安全に、充実したボランティア体験をするために、7月4日(土)午後3時～4時30分・11日(土)午前10時～11時30分のいずれかの説明会に必ず出席してください。

#### 申込み・問い合わせ

ボランティアセンター(社会福祉会館内)

☎(77)2941

## 介護者のつどい

介護者のリフレッシュと情報交換の場です。

申込みは不要で、途中での入退室も可能です。介護をしている人、介護に関心のある人など、お気軽にご参加ください。

	日時	場所	問い合わせ
介護者のつどい	7月9日(木) 午後1時30分～3時	中部福祉センター 多目的室	中部福祉センター ☎76-0090
	7月24日(金) 午後1時30分～3時30分	桜井福祉センター 多目的室1	桜井福祉センター ☎99-7365
	7月30日(木) 午後1時30分～3時30分	北部福祉センター 研修室	北部福祉センター ☎97-5000
おしゃべりサロン	7月4日(土) 午後1時～4時	社会福祉会館 集会室	ボランティアセンター ☎77-2941

※おしゃべりサロンは当事者による自主グループです。

## 安否確認サポート 鍵の預かり事業を開始

核家族化、就労形態の多様化などに伴い、不測の事態に備えて自宅の鍵を預ける人がいない人のために、「鍵の預かり事業」を開始しました。

福祉電話や乳酸菌飲料宅配等による安否確認を行う際に迅速かつ円滑に対応できるようにします。また、外出時に鍵を紛失した場合の開錠のお手伝いもします。

#### 対象

ひとり暮らし高齢者・障がいのある人、高齢者又は障がいのある人で同居人による鍵の管理が難しい人など

#### 条件

①利用年度の社協賛助会員(千円/年)  
②災害時要援護者支援制度登録  
③ひとり暮らし高齢者登録(ひとり暮らし高齢者のみ)

**その他**▼申込みには、複製した鍵を用意していただく必要があります。

まずは、お気軽にお問い合わせください。

#### 申込み・問い合わせ

ふれあいサービスセンター

☎(72)0123



ケアマネジャーの試験が10月11日(日)に実施されます。試験案内と願書は市役所高齢福祉課、社会福祉会館、各福祉センターで配布しています。願書の受付期限は7月15日(水)です。

